

1人1台時代の授業参観ガイド

私たちはICTを利活用した学習の何を参観すればよいのか

芳賀高洋

岐阜聖徳（しょうとく）学園大学 教育学部 准教授

現在の研究テーマ（教育領域における情報倫理学）

- 教育と情報に関して「空白の指針を埋める」
- 教育と情報の「迷い」を捉え、「希望」に変えていく



Gifu Shotoku Gakuen

岐阜聖徳学園大学

1人1台時代の授業参観ガイド

私たちはICTを利活用した学習の何を参観すればよいのか

教員養成という私の本務から得た知見に基づき、**一般の人**が、面白く、発展的に、前向きに、賢く、一人一台時代の授業を参観するポイント（4観点）をのべました。余計なお世話ではあります。

ただし、「授業参観」とはいうものの、教員の指導力や技術の参観ではなく、**子どもの個の学びを参観しましょう**、という呼びかけです。

議論したいところは**太字**にしましたが、数が多いのでとくに議論したいところを**紫色**にしました。



岐阜聖徳学園大学

1

先生が ICT を子どもにどのように使わせているかを見るのではなく、**子どもがどのようにうまく使いこなしているか**をみる。

ICT の使いどころを**子どもが判断し、決める力が身につくような学び**であるかをみる。

ICT がただの道具や環境ではなく、**子どもの「能力」**になりえているかをみる。



議論したいところ

2

1人1台時代の**賢さ**を考え、問題解決型学習（や創造ベース学習）の**必然的な行動**について**思いをめぐらせながら参観**する。

先生の授業を観察し、良い悪いと評価を下すよりも、**子どもの言動(学び)**を観察して**思いをめぐらせる**。

3

どのような教科学習でも、
実技教科の学習をみるつもりで授業参観する。系統学習や**一斉授業に ICT を無理に使わせているか**、いないかを見る。



時間があれば議論したいところ (2)

4

「**学力**」とは何か、
これからの「**生きる力**」とは何なのか、
を**自問**しながら**参観**する。

おわり